



## ゆるやかに語る

Vol.2-1  
Speaking Softly

### 【対談者】

浅羽 修丈先生(基盤教育センター):図書館長  
後田さん(文4年):図書館アルバイト・図書館サポーター  
中島さん(法3年):図書館サポーター／黒澤さん(外2年):図書館サポーター  
濱田さん(文1年):図書館サポーター／清浦さん(文1年):図書館サポーター

第2回目は、図書館長の浅羽修丈先生と図書館に縁のある学生4名に図書館サポーター主催イベント「ボードゲーム WEEK！」(※1)へご参加いただきつつ、座談会を行いました。当初はゲームをしつつ穏やかにお話を…と予定していましたが、戦いがとてつもなく白熱していき、対戦しながらのお話はできませんでした…。が、ゲーム後にお話を伺った際には、皆さんの距離がグッと縮まっており、打ち解けた雰囲気の良い座談会となりました。図書館長としての先生とお話する機会は滅多にありませんので、学生の皆さんには事前に図書館長に聞いてみたいことを考えてきていただき、直接質問していただきました。



※1…図書館にあるボードゲームで遊んでみよう！という催し。ゲームの勝敗は後のコーナーにてご確認を♪

## Q1.本を読む時のルーティーンは？

後田:本を読む時に必ずやることや、逆にやらないことはありますか？音楽をかけるとか、飲み物を用意するとか…。

浅羽:読む本の種類にもよりますが、研究に関係する専門書を読むときの必需品は付箋とマーカー、あとはペン。本を読む時には「いかに本を汚すのか」を考えているので、気になる箇所にマークを付けたり、余白にメモをとったり、ページ全体が気になれば付箋を貼ったり、自分の意見を書き込んでおくこともあります。

後田:それ以外の、例えば趣味の本を読む場合はどうですか？

浅羽:音楽と飲み物ですね。音楽は基本的にはジャズかブルースで、その音楽が聞こえるか聞こえないかぐらいの大きさにして流して。そこで飲み物を飲みながら読むと、その時はペンとかは多分使わないね。特にウイスキーが好きなので、ウイスキーの本や趣味のカメラに関する本を読みながらウイスキーを飲んでいることが多いですね。



※2…秋の読書月間(2025.10.28~12.19)の企画、図書館トークイベント「本の森」第4回のこと。ここでは浅羽館長お気に入りの本として『もし僕らのことばがウイスキーであったなら』が紹介された。



『もし僕らのことばがウイスキーであったなら』村上春樹 著 新潮社文庫刊(2021)

## Q2.趣味で読むのはどんな本？

中島:ウイスキーの本を読まれるとのことですが、それは知識的な情報の書かれた専門書ですか？それともビジュアル重視の雑誌みたいな本ですか？

浅羽:以前図書館のイベント(※2)で紹介した好きなエッセイの時もあるし、ウイスキーにすごく詳しい方が雑誌に連載したコラムみたいな形で書いたものを本にまとめたものがある。例えばウイスキーの蒸留所でこんな経験をしたとか、この蒸留所にはこんな猫がいて、その猫が愛らしかったとか、些細な話なんですけれどもそんな話を読みながら、それぞれの蒸留所のことをイメージして読むのが好きかな。

中島:とても素敵ですね。

浅羽:皆さん、好きなものを一緒に食べたり聞いたりしながら読むと、その本の印象がさらに深まると思うので、ぜひ試してみてください。



## Q3.読み進めるのは一冊集中派？同時並行派？

黒澤:本を読む時は一冊の本だけに集中して読むか、並行で何冊か読むか、どちらの方が多いですか？

浅羽:基本的には一冊集中派ですが、専門書を読むとなった場合、研究室と自宅にはそれぞれ別々の本を置いてるんですね。なので、研究室にいる時はこの本を、自宅にいる時はこの本を、と場所によってそれぞれ一冊を攻めていく。そんなイメージですね。趣味の本は、その時の気分かな。ただ、例えばウイスキーの本を読もうと思った場合は、いろんなウイスキーの本をフラフラしながら読むんじゃなくて、まずはこの一冊を読破しようって決めるし、カメラに関してはこれを読破しよう、という感じで読んでいます。



※3…思いがけない、偶然の出会いのこと。前号で図書館の価値のひとつとしてあげられた。



### Q4. 電子化は図書館に影響をもたらすか？

濱田:今、いろんなアプリなどで電子書籍が読めるようになっていますが、電子書籍の普及が図書館に何か影響があるのか、どうお考えですか？

浅羽:すごい質問がきました(笑)。電子化の影響は間違いなくあると思います。電子書籍についてはわざわざ図書館に来ずとも、検索をして、読みたい本が決まればその場で読むことができます。すると図書館に来る頻度が少なくなる、ということは十分に考えられます。しかし、利用に際して区別をしてほしい、と考えています。

濱田:図書館を利用する時の区別、ですか。

浅羽:読みたい本の明確なタイトルがわかっているならば、それは電子書籍で良い。検索してすぐ手に入る、その便利さは捨てる必要はないと思います。ただ、図書館の良さって、僕はセレンディピティ(※3)だと考えています。それは自分自身にとってすごく大きな、もしくは今まで考えてもいなかった角度から、何か物事を考えるきっかけを作ってくれる。本棚を見てみて、「あ、これ面白そう」と思って実際に手に取ってみる。こういう出会いが図書館にはある。その出会いというのは、電子書籍では難しいですね。レコメンドの形でいくつか紹介されることはありますが、図書館では多分それ以上の出会いがある。そういった本との出会いを求める場としても、図書館の存在価値をなくしてほしくないと思います。また、同じ本を読むのにしても、紙と画面で脳の働きが違います。紙面の場合、見開きのページ全体の情報を取り入れつつ、全体を俯瞰しながら読むことができますが、画面の狭い視野ではそれが難しい。僕は電子書籍の論文をデータでもらってもそれを必ず印刷します。電子版の画面で読む時と印刷して紙面で読む時で、明らかに思考パターン違いますから。皆さんも自分のニーズに合った読み方をしてほしいと思います。

### Q5. 忙しくても読書するには？

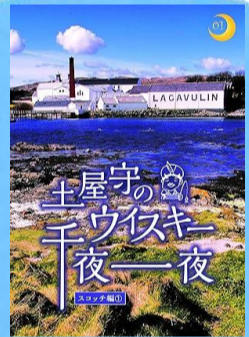
清浦:昔はちゃんと読書をしていたのですが、現在は本に向き合う時間を確保することがなかなかできなくなってしまっています。先生はお忙しい中読書されていますが、どうすれば読書の時間を確保できますか？

浅羽:非常に難しい質問で、かつ同じ悩みを持っています。僕も昔、ある先生に同じことを相談して、その時の回答をずっと大切にしています。それは【時間割をつくる】こと。皆さんの場合だと、例えば2限は授業と決まったらその授業はさぼらないでしょう？

清浦:はい、ちゃんと行きます。

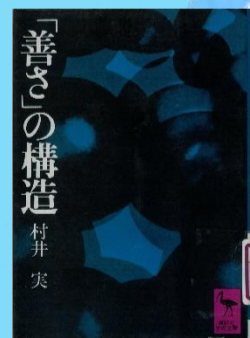
浅羽:で、次は読書の時間となった時に、なぜそれをさぼるの？と。時間割を守れない時、そこには意思決定の弱さが見え隠れするんです。この時間は本を読む時間、と強い意志を持って確保することを習慣づけると、読書の時間が削られることは少なくなる。課題や遊ぶ時間も、読書の時間を削るのではなくそれらの時間を確保する時間割をつくり、スケジュールを各曜日に立てていく。そうすれば1日の中の短い時間でも読書の時間が確保できるし、積み重なれば結構な時間になります。1日10分15分でも1~2カ月で論文1本読めますからね。

清浦:短い時間でも良いというところがちょっと救いです。



『土屋守のウイスキー千夜一夜 01 <スコッチ編(1)>』  
土屋守 著  
ウイスキー文化研究所(2021)

『「善さ」の構造』  
村田実 著  
講談社(1978)



『人はいかに学ぶか  
日常的認知の世界』  
稲垣佳世子/波多野誼余 著  
中央公論新社(1989)



### Q6. 思いがけない出会いになった本はある？

中島:先生にとってすごい出会いとなった本はありますか？この図書館にあれば私も出会ってみたいので教えてください！

浅羽:趣味の本でいえば『土屋守のウイスキー千夜一夜』(ウイスキー文化研究所著)というエッセイですね。全く知らずに手に取って、出会えて良かったと思っている本は『人はいかに学ぶか』(稲垣佳世子/波多野誼余著)。これは読みやすく、人が学ぶということの本質を問うた本です。あとは『「善さ」の構造』(村田実著)。これも偶然手に取ったもので、読んでみると人の根幹をつくような、結構鳥肌が立つような内容の哲学的な本でした。

たくさんの  
素敵なおはなし、  
ありがとうございました！

# こんな資料、あり

What a valuable !!!  
Vol.1-1

このコーナーでは

「じつはうちの図書館、こんな珍しい資料もあるんです！」  
という、普段なかなかお目にかかれない資料をご紹介します。

解説・紹介記事執筆者  
法学部 教授  
福本 忍 先生  
(専門:民法学(フランス民法))



紹介記事についてのお問い合わせ・その他ドマに関するご質問はこちらへ

✉:shinobu-f@kitakyu-u.ac.jp

現在、北九州市立大学図書館には約 62 万冊の資料があります。  
資料とひとことで言っても、紙面にまとめた図書から web 上で読める電子書籍、はたまたディスクになっているもの等、形態は多種多様。  
さらに、紙の資料だけに絞っても図書や雑誌、地図など様々な形態があります。  
第 1 回は貴重図書室から発見されたこちらの図書。法学部の福本忍先生がこの資料にお詳しいと伺い、是非にとご教授いただきました。  
あわせて、この資料についての紹介記事を寄稿していただき、初回からとっても valuable !

## 『自然的秩序における民事法、公法、並びに[学説彙纂および勅法彙纂から]抜粋された法・新版

( LES LOIX CIVILES DANS LEUR ORDRE NATUREL, LE DROIT PUBLIC, ET LEGUM DELECTUS, NOUV ÉD.)

ジャン・ドマ (Jean DOMAT) 著



私が  
書きました

### ●これってどんな本?●

【書名】 自然的秩序における民事法 他

【仏文原題】 *LES LOIX CIVILES DANS LEUR ORDRE NATUREL, LE DROIT PUBLIC, ET LEGUM DELECTUS, NOUV ÉD.*

【著者】 ジャン・ドマ (Jean DOMAT)

【出版社】 DELALAIN

【出版年】 1767 年



新聞紙くらいの大きさ

### 【特徴】

- ・言語: フランス語 (一部ラテン語)
- ・第 1 巻と第 2 巻がまとまって一冊の本になっている(合冊版)
- ・ドマ著作 5 編 + α がまとめられた「全集」スタイル
- ・表紙の裏(見返し)にはマール紙が使用されている

マール紙



マール紙については不定期ですがギャラリーで展示・紹介しています

ここから第2巻

### 【当館における所蔵情報】

請求記号: 324.935/D85

資料 ID: 0003636339

配架場所: 貴重図書室

閲覧にあたっては事前申請が必要です。  
ご希望の際には余裕を持ってご相談ください。

### ●書いたのはどんな人?●

フランスの法学者。

1625 年 11 月 30 日 誕生

1696 年 3 月 14 日 永眠 (享年 70 歳)

法曹の家系に生まれ、弁護士、検事となり、晩年は(民)法学者として活躍。  
敬虔なジャンセニスト\*。後のフランス民法典に多大な影響を与えた。  
親友は「パスカルの原理」や「パンセ」で有名なパスカル(Blaise PASCAL)。

Jean DOMAT (ジャン・ドマ)

\*ジャンセニストとは…  
教会(イエズス会)・教皇を絶対視する立場に反対する考え方を持つカトリック信者のこと。

( [https://pantheon.world/ja/profile/person/Jean\\_Domat](https://pantheon.world/ja/profile/person/Jean_Domat) )  
クリエイティブ・コモンズ表示継承 4.0 国際ライセンス(参照日:2026/3/16)



©Pantheon

### ●どの辺りが valuable?●

まず、250 年以上前の本であること。

次に、フランス民法典編纂の基礎となった著作であること。  
(その界隈の学者の方には垂涎の資料らしい)

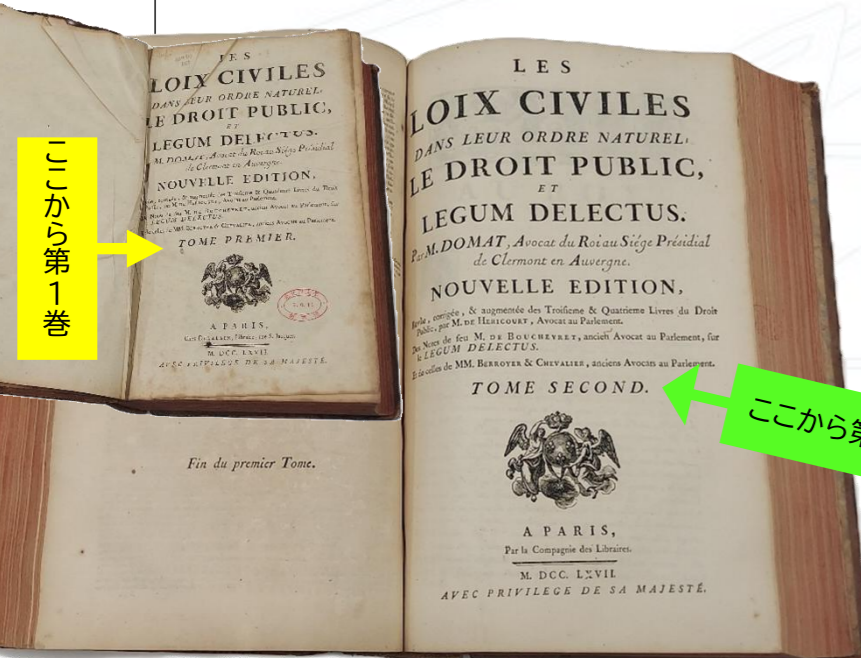
さらに、そんなに古い本なのに保存の状態が良く、  
現物の文字の判別ができること。

そして、当館の資料は直接手に取って閲覧が可能  
であること。

### ●!!!●

この資料について情報を整理していく過程で、なんとマイクロフィルム版を発見! 図書と同じ 1767 年出版かつ新版です。更に英訳版のマイクロフィルムまで!

詳細については次のページからの福本先生にご寄稿いただいた紹介記事にてお確かめください!



ここから第1巻



《貴重資料紹介》

ジャン・ドマ『自然的秩序における民事法、公法、並びに〔学説彙纂および勅法彙纂から〕抜粋された法・新版 (LES LOIX CIVILES DANS LEUR ORDRE NATUREL, LE DROIT PUBLIC, ET LEGUM DELECTUS, NOUV ÉD.)』

本学図書館所蔵版の学術的意義および内容略説

福本 忍 (法学部 法律学科 教授)

- 1 はじめに
- 2 ドマの人物像、民法学的特質、および主要著作の略説
- 3 図書館所蔵版ドマ『自然的秩序』の特徴
- 4 むすびにかえて

1 はじめに<sup>1</sup>

本稿では、フランス民法典編纂に影響を与えた 217 世紀の法学者ジャン・ドマ (Jean DOMAT 以下、ドマ) の著作『自然的秩序における民事法、公法、並びに〔学説彙纂および勅法彙纂から〕抜粋された法・新版 (LES LOIX CIVILES DANS LEUR ORDRE NATUREL, LE DROIT PUBLIC, ET LEGUM DELECTUS, NOUV ÉD.)』 (以下、『自然的秩序』) につき、本学図書館所蔵版の内容を紹介する。

昨年 12 月、図書館から『自然的秩序』の所蔵があるとの報に接して以来、ドマの著作に関する書誌情報<sup>3</sup>の提供を筆者は受けてきた。12 月 9 日には『自然的秩序』を閲覧した<sup>4</sup>。院生時代、筆者は、19 世紀フランス民法における契約解除の基礎理論等を考察した際<sup>5</sup>、ドマの著作のコピーを他館から取り寄せ、解除関係部分を邦訳した経験がある。この経験を買われ (?)、昨年末、本稿執筆依頼を受諾した。

<sup>1</sup> 本稿で参照・引用した先行業績は、次の通り。野田良之「ジャン・ドマとフランス民法典一特に民事責任の規定を中心として」比較法雑誌 (日本比較法研究所) 3 巻 2 号 (通巻 8 号) 1~112 頁 (1956)、小川浩三「ジャン・ドマの lois de la religion と lois de la police (一)」北大法学論集 38 巻 3 号 415~454 頁 (1988)、和田敏朗「ジャン・ドマ (一六二五~一六九六) の契約観—物権変動における意思主義の萌芽—」早稲田法学会誌 43 巻 437~479 頁 (1993)、西村隆誉志「一七世紀法学における『フランス人の法』の構築—法整序にたいする一七世紀以降の対応—」愛媛法学会雑誌 30 巻 3・4 合併号 49~78 頁 (2004)、拙稿「フランス債務法における法定解除の法的基礎 (fondement juridique) と要件論 (1)—19 世紀の学説・判例による『黙示の解除条件』構成の実質的修正に着目して—」立命館法学 299 号 321~406 頁 (2005)、中野万葉子「ジャン・ドマ (一六二五—一六九六) の私法理論—法理論の基本的構造—」法學政治學論究：法律・政治・社会 (慶應義塾大学大学院) 101 号 135~164 頁 (2014)、同「義務の体系における契約の解除」西南学院大学法学論集 51 巻 2 号 45~66 頁 (2018)、および水林翔「ジャン・ドマにおける公法理論」流経法学 19 巻 1 号 85~126 頁 (2019)。※注 (1) に掲げた諸論考は、“野田〇頁”の形で出典を明記する。

<sup>2</sup> 同法典の編纂に影響を与えた同国の法学者として、ドマと並び称される 18 世紀に活躍したポティエ (Joseph-Robert POTHIER 1699~1772) がいる。

<sup>3</sup> 『自然的秩序』は、1993 年に所蔵された。当時の法学部教員が研究費で購入したとの情報が遺されている。

<sup>4</sup> 閲覧にかかる労をお取り下さった図書館司書・伊崎仁美さんをはじめ、図書館スタッフの皆様には厚く御礼申し上げます。

<sup>5</sup> 拙稿 339~347 頁および 390~394 頁注 (117) ~ (170) 参照。

2 ドマの人物像、民法学的特質、および主要著作の略説

(1) ドマの略歴・人物像および民法学的特質<sup>6</sup>

ドマは、1625 年にオーヴェルニュ州クレルモン・フェランで生まれた<sup>7</sup>。父は元・公証人で母も検事の娘という法曹一家で育つ。ドマは 1642 年頃、ブルージュ大学で法学を修めた。20 歳で大学を卒業して弁護士となり、22 歳で結婚し 13 人の子に恵まれた。1655 年、ドマはクレルモン・フェラン上座裁判所検事 (avocat du roi au présidial)<sup>8</sup>となり、30 年間奉職した。ドマは、職務には峻厳だったが慈悲深く、貧民に惜しげなく施しをしたと今に伝わる。この間ドマは学識を磨き、子の教育のため法学研究を続けた。これがルイ 14 世に認められ、研究継続のため年金を付与された。ドマは 1685 年パリに移住し、同地で『自然的秩序における民事法 (LES LOIX CIVILES DANS LEUR ORDRE NATUREL)』 (以下、『民事法』) の執筆に専念した。同著初版の一部は生前に刊行されたが、同著残部と『自然的秩序における民事法に続く公法 (LE DROIT PUBLIC, SUITE DES LOIX CIVILES DANS LEUR ORDRE NATUREL)』 (以下、『公法』) は彼の死後 (1697) 刊行された。ドマは、1696 年に 70 歳で生涯を閉じた。若い頃から王政支持者で、信仰的にはジャンセニストの立場を貫いた。この信仰姿勢からドマは、パスカルと深い親交を持った<sup>9</sup>。

ドマの民法学の特質は、当時フランスに伝わっていたローマ法の規律を、パスカルやデカルトの思考法に着想を得て整序し、秩序ある体系に再編した点にある。その背景には、彼のキリスト教的思想 (神への愛・隣人愛) から導き出された engagemens (義務) 概念が厳存する。

(2) 主要著作の略説

- ① 『学説彙纂および勅法彙纂から抜粋された法—学校および裁判における使用のために—<sup>10</sup> (LEGUM DELECTUS EX LIBRIS DIGESTORUM ET CODICIS AD USUM SCHOLÆ ET FORI)』 (以下、『抜粋法』)

初期の著作で、学習や裁判実務での使用のために編纂された、ローマ法の主要法令のドマによる抜粋集である。彼はローマの主要法令から法文を選別し、それらに簡潔なタイトルを付した。同著は 1700 年~1701 年にパリで出版された<sup>11</sup>。

- ② 『演説・講演 (HARANGUES)』 (以下、『演説・講演』)

図書館所蔵版ドマにも収められている資料で、『自然的秩序』の中では、『本書の著者により述べられた演説・講演 [harangues] : かつて、彼はクレルモン上座裁判所検事の職に従事していた (HARANGUES PRONONCÉES PAR L'AUTEUR DE CET OUVRAGE, Dans le temps qu'il exerçoit la charge d'Avocat du Roi, au Siège Présidial de Clermont)』との表題が付されている。『演説・講演』は、ドマが法廷開始の際に開廷の辞として述べた演説を集めたもので、彼の法理論を知るうえで重要な資料とされる<sup>12</sup>。

<sup>6</sup> 2 (1) の叙述は、野田 16 頁および関連注 (23 頁)、並びに、同 23~29 頁および関連注に依拠している。同 56~76 頁および関連注も参照。中野「私法理論」148~151 頁および関連注 (162~163 頁) も参照。

<sup>7</sup> ドマ生誕の 2 年前、彼の生家の近所でパスカル (Blaise PASCAL : 1623~1662) が誕生した。野田 23~24 頁参照。

<sup>8</sup> 「検事」との訳出につき、野田 25 頁および 27 頁注 (3) 参照。

<sup>9</sup> ドマとパスカルの交遊の詳細は、野田 29~46 頁および関連注参照。

<sup>10</sup> 訳出は西村 51 頁および柴田光蔵『法律ラテン語辞典』16 および 59 頁 (日本評論社、1985) を参考にした。

<sup>11</sup> ①の叙述については、野田 48~49 頁および西村 51 頁参照。

<sup>12</sup> 野田 49 頁および 52 頁注 (3) 参照。

この資料の他にも、貴重図書室にはいくつかの資料があります。しかし、その資料について精通した先生や知識を持つ職員がいなければ、その資料が貴重なのか、はたまたそうでないのか判別がつかないということも。「これは!？」という資料を発掘した際は、ぜひ職員へご教授くださいませ。

### ③『民事法』<sup>13</sup>

ドマの代表的著作。彼は、17世紀当時通用していたローマ法文を体系的に配列・整序し、当時の実務にも耐えられるよう再構成した。ドマの民法理論はローマ法にその基礎を置く。他方、17世紀当時のローマ法の非体系性を批判し、『学説彙纂』や『勅法彙纂』に見られる各法文を結びつけている“自然的秩序”の欠落に着目し、この“秩序”を発見して民法の規律群を“ひとつの体系”の下に整序する試みに着手した。『民事法』の全体像は以下の通り。

#### 前加編

##### 第1章 法規一般

##### 第2章 人

##### 第3章 物

#### 第1部 債権債務関係 (engagemens) 及びその効果

##### 第1編 合意による意思的かつ相互的債権債務関係

##### 第2編～第4編 ※表題割愛

#### 第2部 相続 (successions)

##### 第1編～第5編 ※表題割愛

1804年公布のフランス民法典は、前加章、第1編 人、第2編 財産及び所有権の種々の態様、および第3編 所有権を取得する種々の方法から成る。同法典は、個人間の関係を法律関係の基礎に据えるドマの思考を基に、そこから結合主体である「人」を規律し、その関係を媒介する物を「財産」として規律し、そして、財産を中心とする個人間の関係を「債権債務関係」として規律することで、民法典の骨組みを創り上げた。

### ④『法論 (TRAITÉ DES LOIX)』<sup>14</sup> (以下、『法論』)

ドマは、『民事法』の「序文」として法の一般理論につき述べたこの論説を付している。

法を学ぶ際、法の第一原理を知ることが最も重要で、この原理は、神への愛および隣人愛である。ドマは、この原理から演繹的に人間社会を導き出す。また、法を人間社会から抽出し、人間社会の成立には、人と人との結びつきが不可欠で、この関係を彼は engagemens (義務) と定義した。

この理論は『民事法』でも用いられる。ドマによれば、社会秩序は、あらゆる場で債権債務関係 (契約等から発生する義務) により維持され、相続によって時代を超えて維持される。

公法と『法論』の関係につきドマは、「宗教的法」と「ポリス (国制・世俗的統治) に関する法」との区別を論じる。彼は、後者を、国際法、公法、および民事法に分類する。ドマは、公法を、統治＝政府の公の秩序に関わるものと解し複数の具体例となる法を挙げている。

### ⑤『公法』<sup>15</sup>

『民事法』の姉妹編で、ドマの死後出版された。目次を編別で観ると次の通りである。

この資料の他にも、貴重図書室にはいくつかの資料があります。しかし、その資料について精通した先生や知識を持つ職員がいなければ、その資料が貴重なのか、はたまたそうでないのか判別がつかないということも。「これは!？」という資料を発掘した際は、ぜひ職員へご教授くださいませ。

### 第1編 統治 (政府) 及び国家におけるポリス (Police)<sup>16</sup> 一般について

#### 第2編～第4編 ※表題割愛

特徴は、三権のうち行政と司法に大きな役割が与えられる点にある。憲法への言及がないのも特徴である。ドマの公法理論にも「神への愛」が厳存し、そこから演繹的に法原理・原則が導き出される。

### 3 図書館所蔵版ドマ『自然的秩序』の特徴

#### (1) 外形的特徴

前掲著作①～⑤が1冊に載録されている「ドマ全集」といえよう。判型は、図書館スタッフ・伊崎さんの調査によれば、縦40.5cm×横27cm (厚さ9cm) で、「タブロイド判 (縦40.6cm×横27.3cm)」に近似する。保存状態が良く、260年近くを経た今でも活字を明瞭に判読できる。表紙頁に1767年 (ローマ数字表記) 出版との表記が確認できる。

#### (2) 内容①——載録著作——

図書館所蔵版『自然的秩序』DOMAT (Jean), *Les lois civiles dans leur ordre naturel, Le droit public, et Legum Delectus*, Nouv éd., Paris, 1767 は、この表題が表紙頁を飾る。TOME PREMIER (第1巻) の表記が同頁中央に見られる。570頁ほどめくると再び表紙頁が現れる。TOME SECOND (第2巻) の表記が見られる。図書館所蔵版第1巻部分には『民事法』のすべてが載録されている。第2巻部分は『公法』を収める<sup>17</sup>。続いて『演説・講演』が載録され、通し頁換算で約820頁目に『抜粋法』表紙頁が現れる。約240頁に渡り前掲①が載録されている。

再び第1巻表紙頁をめくると、「AU ROY (国王へ)」と題され、SIRE (陛下; ルイ14世) を名宛人とするドマの épître (書簡体献辞) が数頁続く。次に序文 (Préface) と前書き (Avertissement) が続く。次頁より『法論』が29頁に渡り載録されている。図書館所蔵版『自然的秩序』は、前掲著作を④→③→⑤→②→①の順に載録した約1,100頁の大著なのである。

#### (3) 内容②——他の版との差異 (民法分野のひとつの具体例) ——

フランス語で、résolution には、契約・債権債務関係の「解除」という意味がある。だが、ドマはこれを広く解し、弁済、相殺、混同、および更改も合意 (convention ≒ 契約) の消滅 (résolution) に含めるとの叙述が筆者所有の (院生時代に入手した解除部分のコピー) 1777年版<sup>18</sup>には存在する<sup>19</sup>。だが、図書館所蔵版と1735年版<sup>20</sup>にはrésolutionに関する項目につき、この叙述が存在しない。

### 4 むすびにかえて

2月にドマのマイクロフィルム版があるとの報に接した。確認したが、タブロイド判と同じ出版年・刊行地で、新版である点も同じだが出版社が異なる。また、ドマの著作の英訳版マイクロフィルム2件が所蔵されていたことも新たに判明した。ロンドン版 (1737) とボストン版 (1853) である。大発見である。今後も図書館所蔵版ドマの調査・分析を進めていく。

以上

<sup>13</sup> ③の叙述につき、野田 49 頁および関連注 (52 頁)、並びに、同 57～60 頁参照。同 67～69 頁および関連注 (75～76 頁) に負うところが大きい。また、中野「私法理論」138～139 頁および関連注 (158～159 頁) にも依拠している。

<sup>14</sup> ④の叙述は、野田 49 頁 [本文④第1段落の叙述]、和田 439～440 頁注 (2) [同第2段落の叙述]、中野「私法理論」154～155 頁および関連注 (164 頁) [同第3段落の叙述]、小川 451 頁注 (48) 並びに水林 105 頁および関連注 [同第4段落の叙述] に各々全面的に依拠している。

<sup>15</sup> ⑤の叙述につき、野田 49～50 頁および関連注 (52 頁) 参照。水林 99～103 頁、同 105～108 頁、同 115 頁および関連注、並びに、同 123 頁にも依拠している。

<sup>16</sup> 「世俗的統治」と解するもの (水林 105 頁) や「国制」と訳出するものもある (小川 416 頁および野田 71 頁注 (2))。

<sup>17</sup> 図書館所蔵版には、『公法』の後に、その『補遺 (SUPPLÉMENT)』が追加的に載録されている。

<sup>18</sup> DOMAT (Jean), *Les lois civiles dans leur ordre naturel*, Nouv éd., Tome I, Paris, 1777. 帝京大学図書館所蔵。

<sup>19</sup> DOMAT (J.), *op. cit.* (18), 1<sup>re</sup> PARTIE, Liv I, TITRE PREMIER, SECTION VI, n<sup>os</sup>15～18, p. 34. 拙稿 339 頁および 390 頁注 (118) 参照。

<sup>20</sup> 中野「解除」52 頁注 (16) は 1735 年版を参照し、résolution に関する項目につき、この叙述が存在しない旨を同様に指摘する。



# 私、図書館で働いてました | worked at the library

2026年3月まで図書館で働いてくれたアルバイトの後田さん(文学部比較文化学科)にお話を伺いました。勤続年数はなんと3年3か月！長い間本当にありがとうございました。



## Q1. 図書館で働いてみて嬉しかったエピソードを教えてください！

利用者さん(図書館に来る人)に「この本どこにありますか？」と聞かれてしっかりご案内できた時に、過去に自分が図書館・図書室の職員さんにやってもらったことを自分もできている！と感動しています…！

## Q2. 図書館のオススメの使い方は？



とにかくウロウロしてほしいです！  
図書館には想像を超える量の本があるので見るだけでも楽しいですし、人と同じように本との出会いも一期一会なので、館内を歩き回って少しでも興味が湧いたら借りてみるのがオススメです！

## Q3. 北九大生に一言！

本を読むと！本の知識で人にドヤれますよ！  
しかも趣味が読書って言うとなんか理知的でかっこいいですよ！多分…。  
一緒に本の世界を泳ぎましょう！



## Q4. その他思いの丈をどうぞ。

働きながらいろんな本の存在を知れるので、際限なく読みたい本が見つかっておもしろかったです！  
皆さんもたくさん図書館を利用して図書館マスターになってください！

図書館サポーター主催イベント

「Board Game Week !」  
in Library

「ボードゲーム WEEK!」を開催しました

期間:2025/12/15~19 4・5限

会場:図書館本館1階 図書館ホール

ラーニングコモンズエリア

対象:本学学生・教職員

図書館サポーター主催

「図書館ボードゲーム WEEK!」とは…

実は図書館には、ご寄贈いただいた様々なボードゲームが存在しています。そんなボードゲームを活用して、図書館をコミュニケーションやリフレッシュの場としてつかえるような体験会を開催しました。事前の準備はもちろん、イベント当日も図書館サポーターを中心に、学生にも先生にもご参加いただきました。



延べプレイ人数は71名、見学者は20名！  
学生教職員入り乱れ、図書館の中心で愛の告白をしたり、騙し合いが横行したり、こねこを爆発させたりしながらどのゲームも大いに盛り上がりました。

ゆるやかに語る vol.2 の座談会でのアイスブレイクになれば…と、プレイするボードゲームを職員の独断で選出。選ばれたのはこちら。

### 『Chinese checkers』

遊び方は簡単。

- ① 自分の陣地にコマを配置する
- ② 自分のコマを1つ選んで1マス移動させる
- ③ ①②を参加者で順に繰り返す
- ④ 向かい側の陣地に自分のコマを全て移動させる

この盤面の勝者は赤チーム！



参加者全員はじめてのゲームだったので、2人ずつ3組にチームを分け、職員がゲームキーパーを担当しました。はじめは遠慮がちにコマを動かしていた2人が次第に打ち解け、相手のコマの進め方や進路妨害まで加味した戦略を練り始めるほど白熱しました。各チーム、あまりの長考に最終的に一手10秒という制限をつけたものの、1ゲーム終了までにかかった時間はなんと1時間！勝利した上級生チームは諸手を挙げ、ガッツポーズで喜び、負けた残りの2チームは地団太を踏む勢いで悔しがっていました。



図書館サポーター主催  
**ボードゲームWEEK**

実は図書館にはご寄贈いただいた様々なボードゲームがあるんです！そんなボードゲームで遊んでみよう！という図書館サポーター主催のボードゲームの体験会です。  
申込不要、出入り自由、1人でも、複数人でも参加できる気軽なイベントです。この機会にぜひご参加ください！

**日時** 2025年12月15日(月)~19日(金) ※5日間  
**時間** 4・5限 (14:30-18:00)  
**場所** 図書館1F 図書館ホール  
**対象** 本学学生・教職員  
\*上記日時に図書館ホールにご来場ください\*

申込不要!!

# よむけん の なかまたち

(図書館サポーターのページ)

## 北九州市漫画ミュージアムの見学に行ってきました！



2026年11月29日(土)、私たち図書館サポーターは北九州市漫画ミュージアムを訪問してきました。日頃よりご厚意をいただいているご縁から生まれた機会でも、常設展だけでなく、企画展『銀河鉄道 999』50周年プロジェクト 松本零士展 創作の旅路も、学芸員の方のお話を伺いながら見学させていただきました。

展示の中で改めて感じたのが、松本零士さんという人物の大きさです。松本さんは久留米市生まれですが、北九州に大変ゆかりのある方です。私自身の境遇とも重なる部分が多く、この場所で松本さんの世界に触れられたことに、不思議なご縁を感じました。卓越した技量は言うまでもありませんが、松本さんの凄さは「人としての真の部分」を追い求めことにあると思います。宇宙を追い求め、愛を描き、その繊細さを作品へと昇華した松本さんですが、戦艦を描く際に定規をあてずに描いていたという逸話も、その精神性を象徴しているような気がしました。

3年前に旅立たれた松本さんですが、作品を通して今もなお、その繊細な光や想いを辿ることができることに大きな喜びを感じます。また、北九州にこのような素晴らしい創作者がいらしたことを改めて知ることができたのも、今回の訪問の大きな収穫でした。この企画にご尽力くださった皆様に感謝いたします。

(法4年 中島)



## 講義やレポート作成で知った！ サポーターおすすめ本



今回は図書館サポーターが講義やレポート作成の際に活用して、興味を持った2冊を紹介します！

### 『社会学用語図鑑』

人物と用語でたどる社会学の全体像  
田中正人 編・著  
(プレジデント社/図書館所蔵有  
請求記号:361/Ta84)

今回紹介したい専門書は田中正人編・著『社会学用語図鑑』です。「図鑑」とある通り、文字ばかりでなく表やイラストをふんだんに使ってまとめられています。人物や用語が見開き2ページ分ほどでさくっと解説されているため、気になる用語だけを読むこともできます。社会学をざっくり理解したい人におすすめです。

(文2年 清浦)



### 『定本日本近代文学の起源』

柄谷行人著  
(岩波書店/図書館所蔵有  
請求記号:918.68/Ka63)



文学部の講義でテキストとして取り上げられた本書は、一章「風景の発見」からして既存の価値観を破壊しようとする著者の白眉の一冊といえます。とはいえ内容はすこぶる難しいので、講義と合わせて読み進めるのがおすすめです。大学生としてちょっと背伸びした本が読みたい方、日本人としての意識に興味がある方はぜひ。

(文2年 濱田)

# 北九州市立大学図書館

## THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU LIBRARY



### 北九州市立大学図書館

〒802-8577 北九州市小倉南区北方 4-2-1  
TEL: 093-964-4403 FAX: 093-964-4437  
e-mail: lib-2@kitakyu-u.ac.jp

#### ■開館時間■

月～土曜日: 午前 8 時 55 分～午後 9 時 30 分  
日・祝日(定期試験前を除く) : 休館  
休館日等詳細は館内や HP の開館カレンダーをご確認ください。  
URL: <https://www.kitakyu-u.ac.jp/lib/>

#### ■ HP ■



#### ■ SNS(X) ■



北九州市立大学図書館  
図書館だより No.213

■発行日■  
2026 年 4 月

■発行者■  
北九州市立大学  
図書館係